第五篇第九章　絶対国防圏の設定に伴ふ政戦略の進展（橋本）

大本営及び政府は、昭和十七年三月七日連絡会議決定の「今後採るべき戦争指導大綱」に準據して戦争指導を律しつつ昭和十八年夏頃に及んだ。当時定められた戦争指導の主なる狙ひは、既に述べた如く英を屈服し米の戦意を喪失せしむる為、引続き既得の戦果を擴充して長期不敗の戦戰態勢を整へつつ機を見て積極的の方策を講ずる」といふにあつた。然るにその後の世界戦政局の推移は、右方針に根本的検討を加ふべき事態となつて来た。

かかる情勢に対処する為、検討は、先づ大本営の戦略方策より始められた。大本営に於ては、昭和十八年九月初頭「敵情判断」を決定し、この敵情判断に更に諸般の情勢を加味して国軍の全般作戦指導に検討

0368

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を加へ、九月十五日、從來の作戰方針に變更を加へることを決意した。一八九

大本營新作戰構想の狙ひは、ガ島撤退以後引續き行はれている南東太平洋方面に於ける敵との決戰遂行による激烈なる消耗戰より、思ひ切つて間合をとり、所謂「絕対國防圏」を設定して不敗の戰略態勢を強化し、その間航空戰力を中核とする陸海戰力の飛躍的充實を図つて、主動的に米英反攻の高潮に対決せんとするものであつた。

右大本營の新作戰構想を遂行する為には、國家の全機能を擧げて之に集中することが必要であつた。先づ陸海軍の兵備充實を必要とした。次で新防衛線への陸海戰力の投入が必要であつた。その為には船舶の增徵は不可缺の要素である。又航空機の大增產を中心とする陸海決勝戰力の造成の為には、鉄鋼、特殊鋼、アルミニウム等の劃期的生產

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

増強に俟たねばならぬ。而して、これらの目的達成の前提条件として、船舶建造量の増大も亦重要な要素であつた。これらの諸要素は、互に因となり果となつて、どれ一つでも軽視せらるべきものはなく、その要請に応ずる為には真に政治、産業、経済等各般に亘る綜合施策の遂行に俟つべきものであつた。

かくして、大本營及び政府は、政戦略の綜合的検討を進め、遂に九月三十日、御前会議を奏請して「今後採るべき戦争指導の大綱」が決定せられることとなつた。

一、大本營の敵情判断

大本營は、昭和十八年九月初頭、敵情を次の如く判断した。

一、敵情全般

0370

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一九一

連合側の反攻は今後益々熾烈化すべく、世界戦争は、連合側の樞軸側に対する連続的攻勢を以て推移し、本年後期以降明年春夏の交に至る間に於て愈々高潮となるべし。

而して東亜に於ては、米英は、印度、濠洲、支那と共に益々対日壓迫を加重し、南東方面の反攻を更に強化繼続すると共に南西、北東両方面より対日包囲圏の壓縮を図りつつ、空、海より我が占領要域に対する攻撃を強化し、以て為し得る限り速かに東亜に於ける戦局の帰趨を決せんと企図しあるべし。又支那方面に於ては、重慶軍は依然抗戦を繼続すべく且連合側空軍の跳梁は今後逐次増大すべし。

蘇国の対日戦回避には變化なかるべきも、米に対する東蘇基

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

地供与に関しては警戒の要あり。

二、帝国を繞る敵側の兵力配備並に之が増勢判断帝国を繞る米英軍の兵力は、目下才一線兵力航空約二、五〇〇機、地上約二三箇師団にして、才二線を含み航空約六、〇〇〇機、地上約七―八〇箇師団と判断す。

右敵兵力の配備概要左の如し。

兵力区分 / 方面	航空兵力（機数）		地上兵力（師団数）	
	才一線兵力	總兵力	才一線兵力	總兵力
北東方面	約三〇〇	約八〇〇	二―三	約六
中部太平洋方面	約二〇〇	約一、〇〇〇		約三
南東方面	約一、三〇〇	約三、〇〇〇	約一〇	約三三
南西方面	約六〇〇	約一、〇〇〇	約一〇	約三七

0372

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

今後に於ける之が増勢の判断は、歐洲に対する敵側才二戦線の構成規模、敵側船腹の状況、米国軍備擴充の進捗度により異るべきも、敵側は依然歐洲方面の反攻を重視し且作戦余裕船腹現在二〇〇万總噸、今後一年間に於ける増加四〇〇乃至五〇〇万總噸程度を前提とする帝国周邊に対する敵側總兵力の増勢判断左の如し。

時期＼兵力区分	航空兵力（機数）		地上兵力（師団数）	
	才一線兵力	總兵力	才一線兵力	總兵力
昭和十八年末	約四〇〇〇	約七七〇〇	約三五	九〇－一〇〇
昭和十九年中期	約五三〇〇	約九〇〇〇	約四三	一〇〇－一一〇
昭和十九年末	約七〇〇〇	約一二〇〇〇	約六〇	一一〇－一二〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、敵海上兵力判断

イ、米艦隊主力は、ハワイより南東太平洋方面に亘り数箇の部隊に分れて行動しありて、其の總兵力は空母一約六隻、戦艦一約一五隻、巡洋艦一約一五隻を基幹とするものにして、此の外アラスカ、アリューシャン方面及濠洲方面に夫々数隻より成る一部隊行動しあり。

又約一〇隻内外の特空母は、主として南東太平洋に於ける護送に仕じあり。

今後に於ける米空母の増勢豫想は、昭和十八年末保有約一二隻、同十九年中期約一六隻、同一九年末約一八隻にして、米国の建艦は順調に進捗しあるを以て或は若干繰上げらるる

0374

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ことあるべし。

2. 印度洋方面に於ては、英艦隊を主体とする空母一隻、特空母二隻、戦艦四隻、巡洋艦一〇隻程度の艦隊印度洋西部に行動しあるも、伊太利脱落の今日欧洲方面より少くも空母四乃至五隻、特空母数隻、戦艦二乃至三隻、巡洋艦一〇数隻を主体とする有力なる艦隊は、隨時増派可能なるべし。

3. 米潜水艦は、ハワイ、ダッチハーバー、ブリスベーン、バース等を基地として約八〇隻内外あり。別にセイロン方面を根據とする一〇数隻の英潜水艦あり。

四、対日企図に関する判断

敵は、今年後半より明年に亘り太平洋方面に於ては、ラバウル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を中心とする南東方面の要域、印度洋方面に於ては、緬甸、アンダマン、ニコバル、スマトラ等南西方面の要域に対し、夫々東西相策応して攻勢を執り之が占領を企図すべし。

ラバウル方面に於ては、次で南洋委任統治領及比島方面に対し逐次攻略の歩を進むるならん。

此の間適時千島及バンダ海方面の攻略を企図し、海上交通破壊の強化、帝國本土及我が占領要域に対する爆撃を反覆企図すべし又中部太平洋諸島に対しては、現有敵空母兵力を以てしては大規模なる攻略を企図する算少きも、本年末に至ればラバウル方面の攻勢と関連し、ギルバード、ナウル方面或は大鳥島南鳥島方面の攻略を企図する算少しとせず。

0376

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、大本營作戰方針の變更

大本營に於ては、前述の敵情判断に基づき、その他各般の情勢に檢討を加へて今後の陸海軍全般の作戰指導に就て研究を進めていたが、從來の作戰方針に變更を加へる必要を認むるに至つたので、九月十五日、次の如き作戰指導方針を決定し、九月三十日、「戰爭指導大綱」の御前会議決定と共に発動することとなつた。

作戰方針

帝國陸軍は、海軍と密に協同し左の方針に基き作戰を指導す。

一、甲、南部太平洋に於ては、南東方面現占領要域に於て來攻する敵を破しつつ極力持久を策し、此の間速かにバンダ海方面よりカロリン群島方面に亘り防備を完成し且反擊戰力を整備し、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以て来攻する敵に対し徹底的に攻撃を加へ、勉めて事前に其の反撃企図を破摧す。

二、南西方面に於ては、帝国の戦争遂行上現占領地域を絶対に確保す。

之が為特に緬甸、アンダマン、ニコバル、スマトラ方面に於ては、来攻する敵を徹底的に撃破し其の企図を破摧す。

三、支那方面に於ては、概ね現占據地域を安定確保しつつ対敵壓迫を強化して敵側戦意の破摧衰亡に努め又北方に於ては、為し得る限り戦備を強化して米蘇提携を封じ以て対蘇戦の生起を防止す。

四、帝国本土、南西油田地帯、海上交通線の各防備を極力強化し戦争遂行に遺憾なからしむ。

0378

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、各方面に亘り深く敵中に進出する破壊作戦に勉む。

六、各種の手段を盡して海軍戦力就中航空戦力及海上輸送力の綜合発揮に勉む。

右大本營の新作戦方針採用の主なる理由は、從来多大の犠牲を払つて之が保持に努力して来た東部ニューギニヤ、北部ソロモン群島、マーシャル群島を連ぬる要域は、今や南東方面に於て將に破綻に瀕せんとしている、又ラバウルを中心とする南東方面わが勢力の無力化傾向は、延いてはマーシャル、ギルバード方面の弱化を招来せんとしている、かくして南東方面に於ける彼我戦勢の懸隔は、今後たとへ戦力を投入しても、長期に亘つて之を確保し得るの成算はない、との判断の下に、此の際絶対国防圏を一擧にバンダ海方面より東西カロリン群島

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

及マリアナ群島の線に後退せしめ、同線に於ける防備を厳にし、反撃戦力就中航空戦力を整備し以て来攻する敵を徹底的に撃破せんとの企図によるものであつた。

かくして、爾後に於ける南東方面作戦の性格は持久戦に転移し、ラバウルを中心とする同方面の三十数万に上るわが占領部隊は、太平洋の孤児として残置せられるの已むなき状況となつた。

三、九月二十五日の連絡会議

右大本営の作戦方針を基礎とし、今後大本営及び政府は如何に戦争を指導せんとするや、この問題に取り組む為検討が進められたが、先づ前提として、「世界情勢判断」、「戦略方策」、「対外方策」の三件に就て、九月二十五日の連絡会議に提議せられ、夫々次の如く決定

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を見た。

世界情勢判断　　昭和一八、九、二五
　　連絡会議決定

才一、　各国の戦争指導

一、　米国

米国の戦争目的は、自国を中心とする世界体制の確立を期し日獨特に日の完全屈伏に在り。而して米は速に終戦を企図し、今明年中に戦勝の態勢を概成せんことを期し優越せる物的戦力を極度に発揮して英国と協力し「ソ」及重慶を利用し、以て日獨の打倒を図るべし。

其の攻撃兵力の重点は、東亜に指向せらるべく又「ソ」を対

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日戦に導入するに努むべし。

戦争交渉し日獨の完全屈伏至難なりと認むる場合に於ては、日獨の勢力を努めて壓縮し与国故に敗戦国に自己勢力を扶植する程度に止め、戦局收拾を企図することなしとせざるべし。

二、英国

英国の戦争目的は、概ね戦前に於ける勢力を維持する為日獨特に獨の完全屈伏に在り。

而して英は、米との提携を愈々緊密にして其の重心を獨に指向し「ソ」を利用して先づ獨の屈伏を図り、他方米と協力して東亜戦線に於ける攻勢を加重し、戦後に於ける東亜処理に不動の地歩を確保せんとするならん。其の間英帝国の結束及近東、

0382

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

阿弗利加に於ける從來の地位の確保に努すべし。

然れども、歐洲の勢力均衡を計り得る範圍に於て獨の存在を許し、「ソ」の歐洲赤化の防止に利用し自國の健在を策すべしとあるべし。而して戰勝の為には米に追隨すべしと雖も、獨の脅威低減するに至らば米に対し自主的態度に復歸することなしとせず。

三、重慶

重慶の抗戰建國の目的は、外國勢力を排除し其の領土及主權の完整を計るに在り。而して帝國に対しては、主として米英戰力に依る日本の屈伏を冀求し、少くとも支那事變前の態勢に復歸することを期しつつ自らは概ね防勢を持して戰力の消耗を回

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

避し、此の間為し得る限り自力更生の策を講じて戰後に於ける自主的地位の確立を図るべし。

四　「ソ」連

「ソ」連は依然世界赤化政策を遂行すべきも、現戰爭目的は、差当り獨の脅威を排除し獨「ソ」開戰前の領土を恢復するに在り、更に為し得る限りスラフ民族の統一、バルカル、西亞方面に対する勢力の伸長を企図すべし。

之が為「ソ」は、自主的に世界戰爭に対処し極力英米を利用しつつ先づ獨の屈伏に專念すると共に、戰後処理に対する発言權を確保する為政謀略を活潑化すべし。

「ソ」は、帝國に対して当分靜謐保持を主旨とすべし。

0384

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、獨國

獨の戦爭目的は、ソ連の脅威を排除すると共に英國の旧支配勢力を打破し、大獨逸民族國家を組織し其の生存の為の歐洲廣域生活圏を建設するに在り。

而して獨は、不敗態勢の確立を期し当分持久態勢を持續して國防力の充実特に航空戦力の増強に努め、其の間成し得る限り「ソ」戦力を減殺し戦爭主導權の回復を図り、且好機を捉へて米英の進攻特に第二戦線構成を撃碎すると共に、交通破壞戦並に対英空襲を強化し、其の戦意喪失に努むべし。

対英本土上陸及西亜方面進出は、当分見込なし。

第二、各國戦爭遂行能力

0385

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、米國

1. 國民の團結力は依然鞏固にして、其の物的優越感にも鑑み繼戰意志は動搖せざるべし。然れども其の志氣は主として戰勢の振否に依り級數的に増減すべし。

人的資源は、漸次困難を感じつつあり。

2. 「ルー」の地位は鞏固にして、其の政治力は戰勢の有利なる限り動搖せざるべし。

大統領の改選期の動向には注視を要す。

3. 工業生産力は、昭和十八年末略々頂點に達し爾後概ね其の水準を維持すべし。

但し飛行機等の重點單需工業は、其の後と雖も相當期間尚

0386

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

上昇するならん。

食糧の国内自給は充分なるも、与国に対する補給は中南米の利用に俟たざるべからず。

4、地上兵力一二六師団を基幹とする現陸軍擴張は、昭和十九年中期に一応概成を見るべく、戦艦二三隻、航空母艦三七隻保有を目途とする現海軍擴張は昭和二十年頃迄に概ね完了するならん。

二、英国

1、国民の団結力は愈々堅固にして、戦勢不利となり国民生活逼迫するも、最後の勝利を信じ継戦意志は動揺せざるべし。

本国の人口資源は、利用の最大限度に達しあり。

0387

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. 「チ」の地位は鞏固にして、其の政治力は動搖せざるべし。

3. 本國の生産力は上昇の余地なきも、米國の援助に依り現狀維持既ね可能なるべし。

食糧は海外依存極めて大なるも、未だ其の需給に窮迫しあらず。

4. 陸海空軍は、米國の援助と自治領等の利用とに依り尙相當の增勢を見るべし。

三、重慶

1. 繼戰意志は、相當に鞏固なり。

人的資源豐富なり。

2. 將の地位は尙鞏固にして、其の政治力未だ衰へず。

0388

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3. 輕兵器及自糧の自給可能なり。

4. 軍隊は裝備劣等なるも、現狀程度の戰鬪に支障なし。

在支米空軍は、漸次增強の趨勢に在るを以て之が活動は輕視を許さざるべし。

四、ソ連

1. 國民性の粘着力と「ス」の指導力とに依り、國民の總戰意志は尙鞏固にして動搖せざるべし。

人的資源は概ね限度に達しつつあり。

2. 「ス」の地位は極めて鞏固にして、其の政治力は動搖せざるべし。

3. 生産力は、明年末碁礎工事に於ては獨「ソ」開戰前の約七

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一八割程度に回復すべし。

但し、飛行機並に戦車の生産量は、本年末頃には戦前の生産量を凌駕すべきも爾後急速なる上昇は期待し得ざるべし。

食糧は相当窮迫しあるも、未だ国内動揺を来す程度に至らず。

4. 年度の絶対損耗を概ね昨年程度（約二五〇万）とするも、明年末に於て現有兵力（約九〇〇万）の保持は可能なるべし。

五、獨国

1. 国民生活は相当逼迫しあるも、国民の志氣は旺盛にして其の団結は堅固なるのみならず、国民の愛国心と前大戦の苦き経験とにも鑑み戦争意志は動揺せざるべし。

0390

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

人的資源は概ね限度に達しあり。

2. 「ヒ」の地位は極めて鞏固にして、其の政治力は動搖せざるべし。

3. 生産力は向上の見込なきも、現戰力の維持は概ね可能なり。航空機生産の急速なる増加を企図しあるも、空襲並に勞働力の状況に依りては豫期の成果を收め得ざることあるべし。食糧は勢力圏内の需要を概ね充足し得べし。

4. 年度の絶対損耗を約六ー七〇万（昨年度の絶対損耗約八〇万）以内に止むるにあらざれば、明年末に於て現有兵力（約一、〇〇〇万）保持は困難なるべし。

六、各國戰爭遂行上の主なる强弱點附録の如し。

0391

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才三、今明年に於ける主要なる情勢の推移

一、獨「ソ」戰の見透

「ソ」は英米の歐洲進攻と策應し、冬期に至るも依然自主的攻勢を続行すべく、獨は守勢を執り極力敵側の人的物的資源の消耗を図るべきも、其の戰線は逐次西移し概ね沿「バ」地方及ドニエープル河に沿ふ要域に於て停頓するならん。

而してドニエープル河に沿ふ要域の喪失は、獨に取りて食糧石油等の資源の取得並に傘下諸国の掌握に及ぼす影響等極めて大なるべきを以て獨は極力之が保持に努むべし。

二、歐洲に於ける英米の才二戰線

英米は、先づ獨傘下諸国の攪亂並に中立国の反樞軸陣營導入

0392

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を策し、「ソ」を利用して敵力獨戦力の減殺を図り且対獨空爆を激化すべく、此の間主として地中海方面、一部を以て北欧方面等よりする対獨包囲攻勢に努むべし。

又獨戦力の程度故に英米の大陸進攻作戦の準備進捗度を較量し、決戦的西歐進攻作戦を企図することあるべく、其の時機は明年春夏の候となる公算大なり。

而して英米と「ソ」との間に伏在する機微なる関係は、右才二戦線構成の時期及方面の選定に相当の影響を与ふることあるべし。

獨は、既に対英米は勿論対「ソ」早期決戦の機を失し、脆弱なる素因をも有する国防圏に立脚し大規模空爆下に防勢を採る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の已むを得ざる状況に在るも、英米の対獨包囲攻勢作戦に対しては極力遠く阻止するに努むると共に、其の西歐進攻作戦に対しては奸策を求め可及的大なる戦力を集中して之が撃攘を企図するならん。

其の西歐作戦の成敗は、獨ソ戦の帰趨と共に獨対英米戦の大勢を決すべし。

三、東亜に於ける米英の反攻

米英は、帝国の不敗態勢確立に先立ち速かに之が破攘を企図し、歐洲戦局の推移如何に拘らず各方面より包囲攻勢を強化し来るべし。

特に今秋冬を期し南東方面の攻勢を愈々熾烈化すると共に、

0394

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ビルマ、アンダマン、スマトラ方面に対して大規模攻撃を敢行し戦局の急転を図るならん。

又我海上交通の破壊並に戦略要點及資源要地に対する空爆を激化すべく、特に洋上及支那本土よりする我が本土及交通線に対する空襲に対しては、大いに警戒を要す。

米英は、武力攻勢に策応し政謀略を激化し、大東亜諸国家諸民族の対日離間を策すべし。

四　「ソ」の対日動向

「ソ」は、差当り進んで又は米英の強制に依り対日開戦は勿論基地供与の如き措置に出づることを先づなかるべきも、情勢の推移、当時に於ける帝国及「ソ」の国力如何に依りては其の可

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

能性絶無にあらざるべし。

五、歐洲に於ける和平

差当り獨、「ソ」、英米何れよりも和平を提議するの算殆んどなかるべし。

然れども、諸般の情勢特に人的資源の損耗枯渇、空爆の激化、政謀略の熾烈化等に依り厭戰求和の思想の抬頭を見るべく、戰局の推移に伴ひ獨英米、獨「ソ」、歐洲和平等各種和平問題の具体化を見る算無しとせざるべく、又豫想すべからざる異變を直接動因として急激に和平の実現を見る可能性も亦絶無にあらざるべし。

才四、綜合判断

0396

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米英「ソ」は、戦争の主動權を把握しある現状に乘じ、今や全力を傾倒して政戰両略に亘る攻勢を連続的に強行せんとし、之に対し日獨は、既得の戰果を活用し飽く迄之が阻止破摧に努めつつあるを以て、茲に世界戰争は明年春夏の候に最も熾烈化すべし。

附錄

各國戰争遂行上の主なる強弱點

一、米國

弱點

1. 戰争目的に崩道性あり。

2. 民族複雜にして、國民は個人主義なり。

3. 作戰が政略の影響を受く。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

4. インフレーションに対し脆弱性大なり。

5. 死傷に対する感情鋭敏なり。

強點

1. 物的戦力大なり。

2. 國防上の地理的条件有利なり。

3. 國民は進取、積極、冒険的なり。

二、英國

弱點

1. 國防上の地理的条件不利なり。

2. 本國は人的資源不足なり。

3. 本國は資源特に食糧、石油等の海外依存度大なり。

0398

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

強點

1. 國民性強靱なり。

三、重慶

弱點

1. 戦略態勢上孤立しあり。

2. 軍需工業力貧弱なり。

3. 國内結束弛緩の因子（國共相剋、民衆厭和思想、抗戦名目の喪失等）を内在す。

強點

1. 國民の生活力強靱なり。

2. 國土膨大にして人的資源豊富なり。

0399

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、「ソ」連

弱點

1. 運輸能力不足なり。
2. 人的消耗に依る影響大なり。
3. 食糧不足なり。

強點

1. 國土膨大にして國民の生活力强靱なり。
2. 政治指導力鞏固にして國家總力の発揮容易なり。

五、獨國

強點

1. 國防國家体制確立しあり。

0400

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. 資源の海外依存度小なり。

弱點

1. 傘下諸國との結束に脆弱性あり。

2. 石油及人的資源余裕なし。

3. 空爆に対し國防圏狹少なり。

六、連合側綜合强弱點

弱點

1. 米、英、「ソ」、重慶間の戦争目的に於て一致せざる點あり。

特に米英と「ソ」との間に於て然りとす。

2. 連合側の戦争遂行は米國に負ふ所なるを以て、米國の繼

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戰意志に左右せらるる廣大なり。

強點

イ、物的戰力の質、量共に優越しあり。

ロ、相互の連絡協同容易なり。

七、日獨側綜合強弱點

強點

イ、共に建設的戰爭目的を有するに於て一致しあり。

ロ、概ね自疆不敗圏を取得し、各々自力を以てする戰爭遂行可能なり。

弱點

イ、直接連絡困難なり。

0402

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2　戦力統合指向困難にして、各個撃破を受くる危険あり。

（以上）

日本は、右「世界情勢判断」に於て、始めて今次戦争の戦争様相―戦争の基本的性格と海洋作戦の様相―を確認するに至つた。

即ち、伊国の脱落によつて三国共同戦争遂行による対英先勝の希望は完全に消滅し、獨逸も亦対ソ各個撃破の好機を逸して内線被壓迫の苦境に立たんとしている。日獨の関係は、翌初の積極的希望より今や互に相手の健在健闘を希念する消極的期待へと變化し、日本としては、真に、獨力による長期持久戦争遂行の肚を持つて対処すべき事態となつた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ソロモン群島を中心とする攻防戦の推移は、海洋作戦の様相を端的に示唆するものであつた。今や制海權の性格は完全に變化した。大艦巨砲主義を中心とする主力艦隊の対戦による制海權争奪の時代は去つた。基地航空と機動部隊との巧みな運用による制空權の獲得、維持、推進下に行ふ水陸両様作戦こそ、海洋作戦の真姿である。日本は、ソロモンの血の代償に依つてこの真姿を確認し得るに至つたが、これに対決すべき成算を得る為には、時と処が必要であつた。

絶対圏防衛の設定を繞る政戦略施策の展開は、かゝる認識の中に生れ且進められて行つた。

今後の戦略方策

右「世界情勢判断」の審議採決に続いて、戦略方策の検討に入つた。

0404

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大本營としては、既に述べた如く九月十五日新作戦方針の決定を見ているので、この方針決定の骨幹となるべき要素を、陸、海参謀次長より夫々次の如く説明して政府側の諒解を得ることとなつた。

二五

才一、今後の我作戦及兵備の見透如何

陸軍部
参謀次長説明

一、今後の我作戦見透に就て

(一) 中、西部太平洋方面

ソロモン東部、ニューギニア方面に於ては、敵の優勢なる航空勢力の為遺憾乍ら制空權の大勢は敵の保有しある所にして、之が為我軍の勇戦に拘らず同方面に於ける我戦略態勢は逐次敵に蠶蝕せられつつありて、今後の戦局推移の見透とし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ては樂觀を許さざるものあり。

一面中部太平洋及西部ニューギニア方面の後方の要線は、帝國國防上絶対に確保を要する戰略要線にして若し之を失ふ時は我國防態勢は重大なる事態に立至る虞大なるを以て、目下極めて不完全なる状況に在る同方面の防備を速急に強化し、遅くも明年中期頃迄に之を整備すると共に、我反擊戰力特に航空勢力の増勢を図り有ゆる手段を盡して之が確保を期し、敵の反攻を擊摧せざるべからず。

(二) 南西方面

連合國側特に英國の印度洋正面に対する反攻企図は、逐次明瞭となりつつあり。特に地中海方面の情勢に鑑み雨季明前

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

後ビルマ、特にアキヤブ方面及アンダマン、ニコバルに対する敵の反攻は必至にして、スマトラ方面に対する反攻の公算も著しく増大せるものと判断せらる。

之に対し我方としては、洋上よりする敵の反攻撃破の骨幹たるべき航空及海上勢力の劣勢、特にスマトラ油田地帯防衛の防空兵力の不足等の缺陥あるも、今後軍の企図しある航空兵力の増勢、防備強化等の対策を促進すること必要なり

特にスマトラ油田に対する敵の空襲に応ずる防衛に就ては、樂觀を許さざる情況なり。

(三) 其他の正面

北東方面の防衛は目下急速に強化せられつつありて、本年

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

入冬期前には一応概成し得べし。

支那方面に於ては、敵空軍の跳梁あるも軍は適時之を封殺しつつあり。

之を要するに、今後に於ける戰局の推移は、愈々深刻なる決戰の様相を呈すべく真に帝國の存亡を堵する重大機局に直面せんとす。之れに対し國家總力を結集して極力航空勢力の増勢を図り、海上機動力を増強し、陸海一体となりて作戰指導の適切を期するに於ては、敵の反攻企図を徹底的に破碎し戰局を有利に進展せしめ得るの確算あり。

三、今後の兵備に就て

陸海軍を綜合し、今後の作戰遂行上所要兵備に就き述ぶれば

0408

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

概ね左の如し。

(一) 陸海航空兵力

大東亜戦争完遂上、陸海軍として所要最少限度の航空兵力は、対日正面に展開すべき敵航空兵力に対抗し得、且機に応じ少くも局所に於ては絶対優勢を以て敵に殲滅的打撃を与へ得るものなるを要す。而して右兵力量は、遅くも昭和二十年度初頭迄に之を完成する要あり。

之が為昭和十九年度に於ける陸海軍所要機数は五五、〇〇〇機なり。而して右所要数の必成を期する為には、国家総力を挙げて今後格段の努力を必要とすべし。

(二) 陸上兵力

0409

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大東亜四周よりする敵の反攻に対し、必勝不敗の戦略態勢を確立せんが為には、航空戦力を骨幹とし之に附随する陸上兵備特に海洋正面及ビルマ方面の兵力並に本土及大東亜要域の防空兵力の増強を必要とするのみならず、対支、対ソ正面亦少くも現状程度の軍備を必要とす。

然れども、国力全般の関係より対支、対ソ軍備に就ては、特に真の装備に於て之が低下を忍び以て航空強化に優先徹底せんとす。

(三) 海上兵力

本戦争完遂上帝国海軍としては、東西両正面に来攻を豫想さるる米英海上兵力に対抗可能の兵力を保有するを要する所、

0410

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我国力の現状に於ては現行計畫以上に艦艇の増勢を行ふこと至難なるのみならず、航空兵力の劃期的増強の為、勢ひ現行の艦艇建造計畫を縮減せざるを得ざる状況にあり。

之が為海上兵力の整備は、海洋航空戦力の確保推進を主眼とする外、特色ある攻撃的兵力及対潜警戒兵力に集中し、爾他の兵力は一切充実を見合はし、其の缺は地の利及之を活用する航空兵力の活躍に依て補はんとするものなり。

海軍部

伊藤軍令部次長

才二、帝国戦争目的達成上絶対確保を要する圏域如何

一、帝国戦争目的達成上、絶対確保を要する圏域は才二説明の趣旨に基き概ね左の如く概定せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

千島、小笠原、内南洋（中西部）及西部ニューギニア、スンダ、ビルマを含む圏域

三、説明要旨

(一) 選定の根據

内戦屈敵の自由を保持しつつ、左記政戦略上の要請を充足すべき最少限度の要域とす。

(1) 本土及大東亜圏重要資源地域（米英対抗戦力の造出並に国民生活最低限度維持に必要なるもの）に対する侵襲阻止

(2) 圏内海空輸送の安全確保

(3) 大東亜圏内重要諸民族の政略的把握

本国防圏縮小は、作戦遂行及国力培養上彼此関連して缺陷

0412

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を深刻化し、長期戦遂行を不可能ならしむる虞大なり。三三

(二) 確保の程度

右圏内に於て敵の大據點を占得せしめず、且圏内重要地點（政治、産業等の致命的中樞部）に対する敵の空襲を防止しその被害を少からしむ。

(三) 確保上の着眼

(1) 敵の大反攻を封止し且之を撃攘すると共に、機を失せず反撃積極作戦に出る為適当なる地の利を活用す。

（航空作戦及補給の見地を主眼とし、作戦遂行の根據たらしむ。）

(2) 敵の航空威力圏を本国防圏内に侵入せしめざる為、圏域

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の外郭には所要の前衛據點を設くるものとす。

(3) 圏内作戦交通を確保す。

第三、船舶損耗減少方策に就て　　海軍部　伊藤軍令部次長

一、船舶損耗減少方策に就て

(一) 船舶損耗防止の成否は、一に懸て護衛艦艇、航空機等所望護衛兵力の急速整備にあり。而して、海軍としては、從前より航空戦力の増強と共に戦備の二大眼目として凡百の努力を払ひ之が急速整備に努めつつあるも未だ豫期の兵力に達せず限られたる施設機材を以てしては、損耗の激化に即応する兵力の実現は至難なる実情に在り。

0414

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

船舶問題、極めて重大なる現段階に於ては、國家として航空戦力に次ぎ之が充足に與に格段の努力を傾注するの要切なるものありと雖、尚船舶保有量の現見透を基礎とし、潜水艦に因る損耗を月平均三万噸程度に抑止する為には、概ね護衛艦艇三六〇隻、対潜飛行機二、〇〇〇機程度を常時整備保有しおく要あり。

(二) 護衛艦艇機の増強と相俟て各種対潜兵器の劃期的進歩並に整備は、(船舶自衛兵器の強化普及を含む)損耗防止上極めて有効なる方策にして之が整備に努めつつあるところ、其の生産に関しては関係各部の海軍に対する全幅の協力を切望する次第なり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(三) 戰勢の變化、輸送に対する要望及護衛兵力整備の状況等を勘案し、適時適切に護衛方式を改訂して戰機に即応せしむる一面、護衛作戰の要求に応ずるが如き合理的輸送方式を確立の要あり。

(四) 船舶損耗は、敵潛水艦によるものの外飛行機、海難に起因するもの毎月三万屯前後に達しつつある実状にして、特に將来飛行機による喪失増大の傾向ありと認めらるるところ、至急左の諸方策を採り之が局限を図るの要ありと認む。

(イ) 敵航空威力圏内に在る重要掩湾及交通線の防空強化

(ロ) 護衛艦艇及船舶の対空兵装の強化

(ハ) 救難船の擴充及船舶応急施設の整備

0416

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(二) 船員の素質向上（待遇改善並に養成機関の内容充実）

(五) 船員の素質低下及員数不足に基く見張、警戒、応急、自衛兵器の使用法等に於ける缺陷が、船舶喪失の因として輕視し得ざるものあるに鑑み、至急之が対策を講ずるの要ありと認む。

(六) 船舶損耗の減少に関しては、其の緊要性を痛感し既に海軍として凡百の努力を払ひつつあるも、更に格段の工夫を加へ其の減少に努力すべきも、之が為必要なる戦備及輸送其の他の要望に関し国力の重点を指向せられ関係各部を挙げて密に協力せられんことを望んで止まず。

三、船舶損耗の見透

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp